

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

こまどり幼稚園・保育園

I. 園の教育目標

教育基本法及び学校教育法にしたがい、学校教育を行い、よき伝統の上に「未来に生きる夢を持った心身ともに調和の取れた子ども」を育成する。また、子ども達が将来自分の持てる能力を十分発揮して社会に貢献できる人間の素地の育成を目指し、次の四つを掲げる。

- (1) 人間として大切な豊かな心の素地を養う。
- (2) 健康かつ安全で人間らしい生活を送るための基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を養う。
- (3) 科学的夢を育て、自然の事物現象に旺盛に反応する感性を育てる。
- (4) 広い心を持ち、国際的に開かれた心情の素地を育てる。

II. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

評価項目に沿って自己点検・自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養う。幼保連携型認定こども園教育保育要領の改訂に合わせ、指導計画の見直しを行い、教育保育内容の改善に主体的に取り組んでいくとともに、本園の特色である科学遊びの充実や日々の保育の質の向上の実践を目指すことを重点項目とする。

III. 評価項目の達成及び取り組み（要約）

	評価項目	評価	取り組み
1	子どもの実態を把握し具体的な手立てをし、子どものよさを認めて評価する。	A	・教師間の話し合いや日々の反省の記録を参考にし、子ども一人ひとりの幼児理解に努めた。また、クラスや学年を問わず子どもに関する情報交換を行った。
2	規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	A	・園生活の中で、基本的な生活習慣を繰り返し指導し自立を促した。また、家庭と協力しながら進めていけるように保護者との連携を密にした。
3	安全管理	A	・年6回の避難訓練をした。長時間保育（ひまわり組）での避難訓練や不審者侵入時の訓練も取り入れた。その都度反省をし、次回の訓練に活かすと共に避難経路の掲示や確認を行った。 ・玄関ドア前に格子戸を設け、子どもの手が届かない場所に鍵を付け施錠をし、安全強化を図った。 ・園内でエビペン講習・嘔吐物処理の講習を実施した。 ・毎朝体温を測定し、健康観察カードを提出してもらった。

S：十分に成果があった A：成果があった B：少し成果があった C：成果がなかった

IV. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評 価	理 由
A	各自、評価項目に基づき自己評価に取り組むことができた。今後も、資質向上のため教育保育を振り返り、取り組むべき課題を自ら認識して改善していくよう努力する。

V. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
教育課程・指導計画	・ 0歳から小学校就学前の子どもの発達を理解を深め、見通しをもった教育保育活動の展開を図る。また、生きる力の基礎を育む3つの資質能力があそびを通して育まれるよう、指導計画を見直す。
行事・活動等の見直し	・ 今年度はコロナウイルス感染症拡大防止の観点から、行事や活動の内容を検討してきた。制限がある中でも、子どもの育ちに必要な内容を考慮し、経験や学びの場を確保する。

VI. 学校関係者評価委員会の評価

評 価	理 由
A	・ 子どもたちのことを第一に思い、コロナウイルス感染症拡大防止対策を図りながら、学びの場を工夫し活動や行事を開催されたことは大いに評価したい。先生方の教育に対する熱意を感じました。